



2026 年 7 月 17 日

各 位

会 社 名 株式会社 WOLVES HAND
代表者名 代表取締役 CEO 兼 COO 北井 正志
(コード：194A、東証グロース市場)
問合せ先 執行役員 CFO 田中 哲生
(TEL. 06-6599-9106)

獣医先端医療研究所の体制強化のお知らせ

当社は、このたび、工学博士であり、放射線物理学・数理物理学・医療工学分野において国内外で豊富な研究実績を有する市川康明博士を、当社「獣医先端医療研究所」の共同代表として招聘いたしましたので、お知らせいたします。

当社グループは、「One Health」の理念のもと、動物医療を起点として人医療・ライフサイエンス分野、環境分野へと展開する研究開発を推進しております。

今回の招聘は、獣医先端医療研究所の研究体制を一層強化し、動物医療における革新的医療技術の創出を加速させることを目的としています。

市川博士は、工学と医療を融合する研究開発を牽引し、名古屋大学及び岡山大学において長年にわたり数理物理学・放射線物理学・放射線医学を専門として研究に従事されてきました。

特に、正常細胞へのダメージを最小限に抑え、動物／人患者の生活の質(QOL)を高く維持するため、ホウ素薬剤を取り込んだがん細胞のみをピンポイントで殺傷するホウ素中性子捕捉療法(BNCT)の技術開発に携わってこられました。

原子力平和利用の理念に沿った技術開発と実用化については国連(UN)傘下の国際原子力機関(IAEA)が一義的に責任を負っていますが、市川博士はIAEA 第60回総会(2016年)においてBNCTの現状に関する報告会(Side Event)を企画・開催し、IAEAによる加速器型BNCTの国際技術書出版(2023年)に尽力されています。

当研究所では、市川博士が有する工学的知見を活かし、

- 次世代型放射線治療の研究開発
- 医療衛生機器の開発
- 新規治療技術の研究
- 医療データ解析
- シミュレーション技術
- 研究パイプライン全体に対する技術的レビュー

などについて、学際的な視点から助言・指導を受けることで、研究開発力のさらなる高度化を図ります。

また、当社は今後、大学・研究機関との共同研究ネットワークをさらに拡充し、次世代獣医療の実現に向けた研究開発基盤の構築を進めてまいります。

【市川 康明 (いちかわ やすあき) 博士 略歴】

工学博士

京都大学工学部資源工学科卒業後、米国 University of Texas at Austin 大学院 Engineering Mechanics 専攻修士課程を修了。名古屋大学において助手、講師、助教授、准教授を歴任し、その後、岡山大学大学院環境生命科学研究科教授、耐災安全・安心センター教授、研究推進産学官連携機構特任教授などを務める。

岡山大学中性子医療研究センターでは副センター長・特任教授として、ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)の研

究開発を牽引するとともに、国際原子力機関（IAEA）との国際連携や大型研究プロジェクトを推進した。2022年から2026年まで名古屋大学大学院工学研究科客員教授を務めるなど、工学・放射線物理学・医療工学分野における第一人者として国内外で活躍している。

専門分野は、数理物理学、放射線物理学、放射線医学。工学的アプローチによる医療技術の高度化や医療機器開発、BNCT（ホウ素中性子捕捉療法）をはじめとする次世代がん治療技術の研究開発に幅広く取り組んでいる。

これまでに、

- 国際原子力機関（IAEA）BNCT 国際会議サイドイベントを企画・司会
- IAEA と岡山大学との BNCT に関する国際協定締結を主導
- IAEA の加速器型 BNCT の国際技術書出版をサポート
- 文部科学省、AMED、JST 等の大型国家研究プロジェクトを多数推進
- BNCT の国際標準化および社会実装に向けた研究をリード

するなど、日本の BNCT 研究を代表する研究者の一人として高い評価を受けている。

以上